

令和7年3月5日

保護者各位

「Overseas Fieldwork in ベトナム」における本学学生の
短期研修についてのご理解へのお願い

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私たち九州大学教育学部では、本学の国際化の計画に基づき、教育学部が持つ多様なアジアとのネットワークを活用しながら、「Overseas Fieldwork in ベトナム」を実施することになりました。アジア圏を中心とする国際的研究と教育の実績を活用し、文化的多様性への感受性と歴史的社会的文脈の理解力を育み、アジア教育のエキスパート(教師、教育行政官、研究者)の養成に基づく取り組みとなります。

国際コース設置以降の授業科目化を目指し、今年度も、特に、海外の教育事情を学ぶために、ベトナムへの短期研修を企画しました。添付の募集要項にありますように、9月16日(火)から9月25日(木)までの9泊10日(1泊は機内泊)でベトナムを訪問し、日越大学、商工短期大学、日本国際学校、在ベトナム日本大使館、日本国際学校、国際協力機構(JICA)ベトナム事務所、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、タンロン工業団地に進出している日本企業(TOYOTA、HONDAなど)、ハノイの半導体工場等(以上、予定)のご協力を得まして、学生は、ベトナムの教育実践について勉強、見学し、問題意識をより焦点化させることとなります。特に、現地滞在している文部科学省職員、独立行政法人職員、国立大学法人職員の方ともお話しする機会を設け、キャリア教育にも資する設計としております。加えて、この度、日ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業 若手人材交流プログラム「国内外の高専と大学が協働する半導体人材の頭脳循環プログラム」

(<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1733/index.html>)に九州大学教育学部が採択されたことにより、宇部高等専門学校の教員と学生と共に、現地半導体工場や日系企業の訪問も行う予定でおります。アジアという地域に赴くことで、アジア文化という鏡を通して生成する「眼差し」が自身に向けられる時、各々のアイデンティティの何が変容し、何が変容しないのか、体験する貴重な機会になると考えられます。また、日本語を学ぶ生徒がいる日本国際学校では、実際に、本学教員による講義と演習が行われます。その演習には、ティーチング・アシスタントとして参加頂くこととなります。

保護者の皆様におかれましてはご心配のことと存じますが、短期海外フィールドワーク研修の趣旨にご理解をいただけますようお願い申し上げます。本研修によりベトナムの教育関係者・児童・生徒・大学生と本学教育学部の学生との教育交流の中で、それぞれの学生が教育学の幅広い知識と研究方法を学びとることができるよう私共も期待しています。

また、今回の海外研修は教育の一環として実施するもので、本来ならば、学生の主体性にかなり任せたいところですが、安心・安全を期して、教員も2名(木村教授、ほか助教1名:1名は女性教員)のほか、現地の九州大学ハノイ事務所スタッフ、宇部高等専門学校からも教員2名によるガイドもお願いしております。

本事業に参加する学生には学生教育研究災害傷害保険の付帯海外留学保険に加入することを義務付けております。引率する教員も万全を期して対応していく所存です。保険加入並びに保護者の承諾のない場合はベトナム研修への参加はできないことになっております。

保護者の皆様のご理解とご協力の程お願い申し上げます。

敬具

九州大学教育学部

教育学部長

田上 哲

本件についての問い合わせは、以下の担当者にお問い合わせいたします。

九州大学教育学部

「Overseas Fieldwork in ベトナム」実行委員会

担当教授：木村拓也・竹熊尚夫